

東ティモール民主共和国

東ティモール民主共和国 (東ティモールと呼ばれることが多い) はオーストラリアの北西、インドネシア列島の最南端の東南アジアに位置し、国土の広さはおおよそ 14,900 km²です。東ティモールは 1975 年 11 月 28 日にポルトガルから独立しましたが、その後インドネシアに占拠され、2002 年 5 月 20 日にインドネシアから独立回復。現在発展途上にある議会制民主主義の国です。13 の自治体があり、独特の文化、歴史を有しています。首都は デイリ。熱帯気候で乾季(6 月～10 月)と雨季(11 月～5 月)があります。東ティモール国勢調査によれば 2022 年現在の総人口は 134 万人、99%がローマカトリックです。



公用語にはテトゥン語とポルトガル語があり、さらにインドネシア語と英語が実用語として用いられています。ファタルク語、マカサエ語、ブナク語、ケマク語といった方言が 35 あります。農業が主な産業で、コーヒー、米、とうもろこし、キャッサバ、さつまいも、大豆、マンゴー、バナナ、バニラなどを生産。特にコーヒーは石油・液化石油ガスに次ぐ輸出品で、37.5%の世帯が生産、日本にも輸出しています。

東ティモールは、金、石油、天然ガス、マンガンなどの天然資源に恵まれており、美しい海やサンゴ礁など観光資源も豊かで、ダイビングやシュノーケリングも人気があります。

<p>位置</p> 	<p>伝統的な建物 ウマ・ルリック</p> 
<p>伝統的衣装 タイス</p> 	<p>ハンドクラフト</p> 

伝統的な食事



バタール・ダーン
(とうもろこし)

エトウ
(豆ご飯)



フェフク・ダアーン
(サツマイモなど)

特産物 コーヒー・バニラ



観光スポット



ジャコ島



アタウロ島

市場

